

国連インド・パキスタン軍事監視団

United Nations Military Observer Group in India and Pakistan (UNMOGIP)

設立年月

1949年1月

根拠決議

安保理決議47(1948)

展開場所

カシミール地域

本部所在地

ラワルピンディー(Rawalpindi) (11月~4月)
スリナガル(Srinagar) (5月~10月)

首席軍事監視員 Major-General Dragutin Repinc (クロアチア)

活動期限 活動期限に関する規定はない。

任務 管理ラインの監視と国連事務総長への報告

経緯・背景

1. 第一次インド・パキスタン戦争

イギリス統治時代は間接統治をとるいくつかの藩王国が存在した。47年のインド独立法においてそれらのうちのひとつ、カシミール藩王国は地理的にインド、パキスタンの中央に位置していたため、どちらの国に帰属してもよいとされた。住民の8割を占めるイスラム教徒は、同じイスラム教国パキスタンへの帰属を望んだものの、ヒンズー教徒であった当時の藩王が独立を目指したために、パキスタンによる侵攻を受けた。それをきっかけとして藩王はインド軍の援軍派遣を条件にインドへの帰属を表明したが、イスラム教徒多住地域の統合を目指すパキスタンはこれを認めず、両国間の戦闘に発展した(第一次印パ戦争)。

2. UNMOGIP設立

- (1) 48年1月、安保理は紛争終結のために国連印パ委員会(UNCIP)を設立し、紛争の調査と調停にあたらせた(決議39)。続いて同年4月、安保理はUNCIPの規模拡大を決定し、軍事監視要員の使用を含む様々な手段を勧告した(決議47)。
- (2) 49年7月のカラチ協定により停戦ラインが設立された後、51年3月安保理は、決議91でUNCIPに代わってUNMOGIPが停戦監視活動を引き継ぐことを決定した。UNMOGIPは停戦ラインの監視、停戦違反の調査とその両当事者・事務総長への報告を行うこととされた。

3. シムラ合意とLOC

71年末、バングラデシュ(当時の東パキスタン)の独立に絡む内戦から、第三次印パ戦争が発生し、カシミールにおいても戦闘が行われた。停戦後、翌72年7月に両国内でシムラ協定が結ばれ、71年12月の停戦によって生じた停戦ラインは双方によって尊重されることが定められた。更に12月には、従来の停戦ラインに代わる「管理ライン(いわゆるLOC)」が両国間で合意され、以来事実上の分割ラインとなっている。

4. 印・パのUNMOGIPに対する態度

- (1) UNMOGIPのマンデートと機能を巡り、両国間に見解の相違が見られる。インド側はシムラ協定締結により、カラチ協定の履行監視を目的とするUNMOGIPの存在理由は事実上消滅したと認識し、72年1月以降、UNMOGIPに対して相手側の停戦違反の申し立てをしていないのに対し、パキスタン側はカシミール内部の管理ラインのインド側部分においてUNMOGIPが展開することにより衝突の予防が可能であると主張し、これまでインド側の停戦違反をUNMOGIPに申し立ててきている。
- (2) このように印パ両国間にはUNMOGIPについての見解・態度の相違はあるが、両国ともUNMOGIPに対して輸送手段の供給や便宜供与等協力を行っている。

派遣規模 (2007年8月31日現在)

軍事監視要員 44名

要員派遣国 (同上)

チリ、クロアチア、デンマーク、フィンランド、イタリア、韓国、スウェーデン、ウルグアイ

犠牲者数 (同上) (2007年9月30日現在)

11名 (事故9名、病気2名)